（平成２５年６月１７日）　**鉄鋼課ヒアリング提出資料**　　全国鉄鋼販売業連合会

１．普通鋼鋼材の在庫状況見通し（全国市中数量調査の自社所有分による）

＊上段は前期比在庫増減、中段［　］は在庫水準、下段（　　）は在庫水準前期比（%）（自社所有分に限る。点線内は全鉄連による予想数字（　　）内は誤差率＝予想値÷実績

平成２４年１２月末	平成２５年３月末	平成２５年６月末見通し	平成２５年９月末見通し
－３５千トン ［　２２３０〃　］ （９８．５%）	＋１７千トン ［　２２４７〃　］ （１００．８%）	－４千トン ［　２２４３〃　］ （９９．８%）	－２２千トン ［　２２２１〃　］ （９９．０%）
２２８８千ﾄﾝ(102.6)	２２１９千ﾄﾝ(98.8)	＊	＊

２．前述の在庫増減がそれぞれ市況に及ぼした影響

平成24年12月末	平成25年３月末	平成25年６月末見通し	平成25年９月末見通し
鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は71,600円で前年比－6,400円、前期比では－100円。建設土木需要は遅ればせながら出始めているが、製造業関連は建産機、自動車が落ち込んでいる。全般的に需要は停滞している。市況は弱含みで推移していたが、条鋼に僅かながら動意が見られるようになった。在庫減らしが思うに任せない状況であり、販売動向も精彩を欠いているため、過剰感が払拭できない。	鉄筋、Ｈ形鋼、Ｃ形鋼の平均市況は75,800円で前年比－300円、前期比では＋4,200円。電炉・溶協メーカーの値上げをそのまま市況に反映できなかったが、ある程度の上伸はあった。また、中板、鉄筋などで仮需が発生。ただ、市場の動きは期待したほどではなく、２月中旬あたりから中弛み傾向が見られるようになり、年度末には停滞感が漂い、値上げ転嫁は遅滞し、先々に不安を投げ掛けた。	メーカー値上げに市場が追従できない展開となっている。需要の足音は聞こえるものの、足元の悪さがそれを遮っているようだ。また、期待感が大きかっただけに失望感が強い。さらには、転嫁の未達状態が。長引くことへの焦燥感もある。だが、実態として販売並びに収益動向は前年実績を上回っており、先々の需要についても見えてきた部分がある。ここは今一度の在庫見直しを行い、需給のタイト化を図り、市場環境を整えたい。	急激な増加は考えられないが、需要動向は前期より好転した推移であろう。だが、それが反映されず、価格動向は横ばいで終始する可能性もある。メーカー値上げにより、価格は上向きであるはずだが、値上げ転嫁の遅延が危惧されそうだ。在庫は横ばい推移だろうが、販売見合いという点では調整が必要であろう。建設関連中心に需要は堅調だが、市中末端まで浸透する展開になれば、荷動きも好転し販売店の収益も改善されるだろう。

３．在庫積み増し、あるいは削減の意欲または方針

年度明けと共に市場は停滞感を強め、現状に至っている。期待感が強かった割には実際の出荷量は増加せず、それが在庫増に繋がった部分もある。未だ市場が活発化していないため、余分な在庫は持たず、販売見合い在庫で必要なものだけ補充していくという姿勢であろう。

４．大阪、愛知の動向

（大阪）アベノミクスは期待先行の感があり、鉄鋼流通では各品種共に荷動き悪く、メーカーの強気姿勢は変わらず、需要家との価格の溝は埋まらない状況にある。来期は７月頃より補正予算に基づいた公共工事の引き合いが出てくれば、条鋼品種にも動きが出てくるものと期待している。

（愛知）建築向け需要は増加傾向だが、労務問題で工事の遅れが懸念される。製造業関連では建機が回復、若干上向きの感触。自動車は引き続き高水準の生産を見込んでいる。一方、大型建機、造船は不調に終わっている。店売りではメーカー値上げの転嫁未達が響き収益が悪化している。加工は小口ながらも忙しい。ただ、売上が上がらず、繁忙感だけという状態である。